

内容	指導員が原木に穴をあけ、全員で種駒を打ち込む。 種駒の打込んだ原木を校庭の隅へ運んで仮伏をする。
ねらい	・椎茸の原木になる木が少なくなって栽培している人等が苦勞していることを理解する。 ・子供の頃から椎茸のことをよく知り、よく食べるようになる。
学習効果	菌床椎茸と原木発生の椎茸の栽培方法の違いを学習する。
関連教科	社会、理科
対象学年	4年生
対象人数	事例では12名
場所	校庭等 事例では松阪市立大河内小学校校庭
時期	冬期
進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導員が原木に植菌の穴をあける。 2. シートを敷いた上で、3人1組で種駒を打ち込む。 1本ごとに打ち忘れがないか各班で確認する。 3. 校庭の角に仮伏する。(全員で運ぶ) 4. 用意してあった小枝で仮伏にふたをする。 5. 6年生になった秋の文化祭に発生した椎茸を出品する。



指導員が原木に穴あけをする。

<p>ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・椎茸栽培には菌床によるものと原木発生があることの説明をする。 ・原木のクヌギの伐採時期を説明する。 ・原木に打込んだ菌の成長と椎茸の発生過程を説明。 ・4年生でやった作業の結果6年生の秋に発生する事の説明。 ・仮伏の必要性とその場所等の説明。
<p>道具・材料</p>	<p>椎茸原木、種駒菌 ドリル、金槌、シート</p>
<p>所要時間</p>	<p>約60分</p>
<p>経費</p>	<p>椎茸原木(クヌギ)20本 270円×20=5,400円 種駒菌 1袋(1,000入) 2,700円 その他資材代 1,000円 計 9,100円 交通費、運賃、講師料等はボランティア</p>
<p>森のせしめ 氏名・団体</p>	<p>松阪林業研究会</p>



シートの上で種駒を打ち込む。



植菌の忘れはないか確認作業。